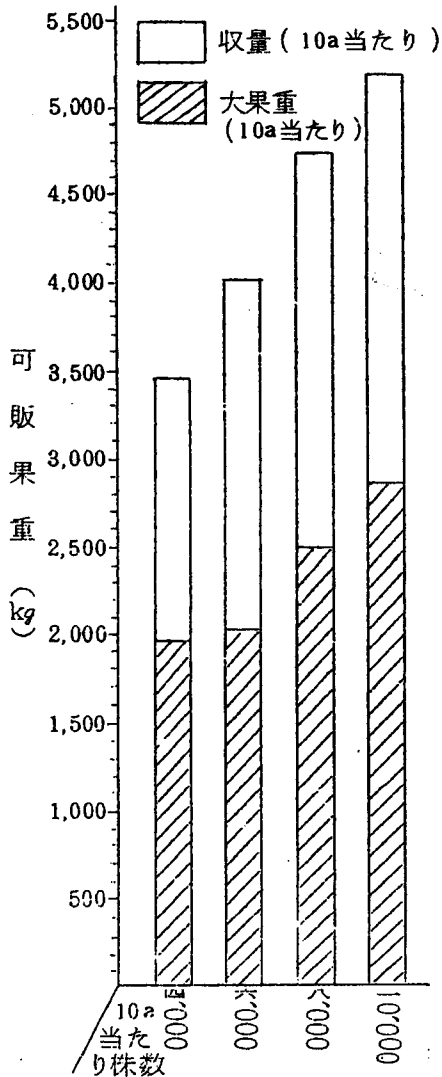
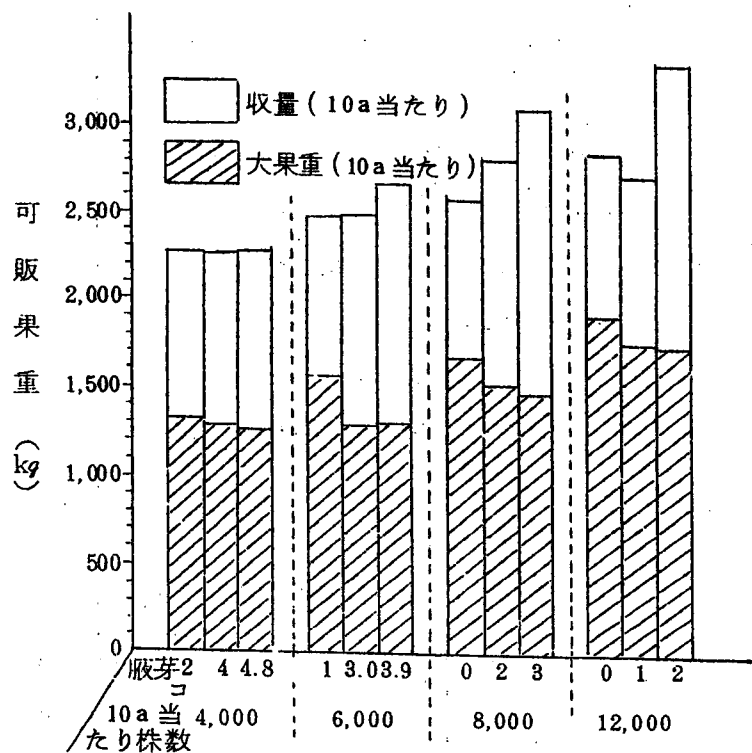


栽植株数と収量、大果重 (S 52年)



栽植株数、腋芽仕立と収量、大果重 (S 52年)



5 残された問題点

12,000株以上の超密植の可能性の検討

6 参考資料

昭和51年、52年岩手県園芸試験場南部分場成績書

7 夏まきサヤエンドウの品種及びは種期

1 背景と特徴

夏秋どりサヤエンドウは、比較的市況が安定しているが、は種期が高温時期となるため一般に収量は低収であることから沿岸地帯の夏期冷涼の気候をいかした夏まき作型の生産安定を目途に品種及びは種期について検討した結果、一応成果が得られたので参考に供し

たい。

2 技術の内容

- (1) 品 種 30日絹莢
- (2) は種適期 7月10日～7月20日頃
- (3) 適応地域 沿岸地域

3 普及上の留意点

- (1) は種期が高温時期のため、出来るだけ地温を下げるよう、は種後モミガラ又はオガクズを2～3cmの厚さに畦上にまき発芽を良好にする。尚、は種操作は5～6cmの深まきとする。
- (2) 種子消毒は必ず行い。
- (3) 病害虫の徹底防除をはかる。

うどんこ病、ウワバ類、ハモグリバエ

4 試験成績の概要

- (1) 試験課題名 サヤエンドウ品種対は種期試験
- (2) 試験年次および場所 昭和51、52年 岩手圏試南部分場
- (3) 試験方法

○ 供試品種

- 51年 ① 極早生電光絹莢 ④ 赤花鈴成 ⑦ 乙女絹莢
② 30日絹莢 ⑤ 白花絹莢 ⑧ 美園改良30日
③ 日本絹莢 ⑥ 白姫 ⑨ 電光30日

- 52年 ① 極早生電光絹莢 ③ 30日絹莢
② 雪印改良30日 ④ 電光30日

○ は種期 6月30日 7月10日 7月20日

○ 栽植距離 51年 100cm×30cm 2粒まき 52年 100cm×20cm 2粒まき

○ 一区面積及び区制 51年 1区 3.3㎡ 各2区制
52年 1区 1㎡

(4) 試験結果

- ① は種期別収量についてみれば、電光30日を除いては大きな差はなかった。
- ② 品種については30日絹莢、雪印改良30日が多収を示した。

以上の結果から、サヤエンドウのは種適期については、6月30日まきでは生育期間が長い割合には収量は多くないことから7月10日～7月20日頃がは種適期であ

り品種については各は種期に於いて30日莢、及び雪印改良が多収を示しているが雪印改良30日の場合、51年の成績は必ずしも本年のような好成績でなかったため、51・52両年とも安定収量を得た30日絹莢が有望と目される。

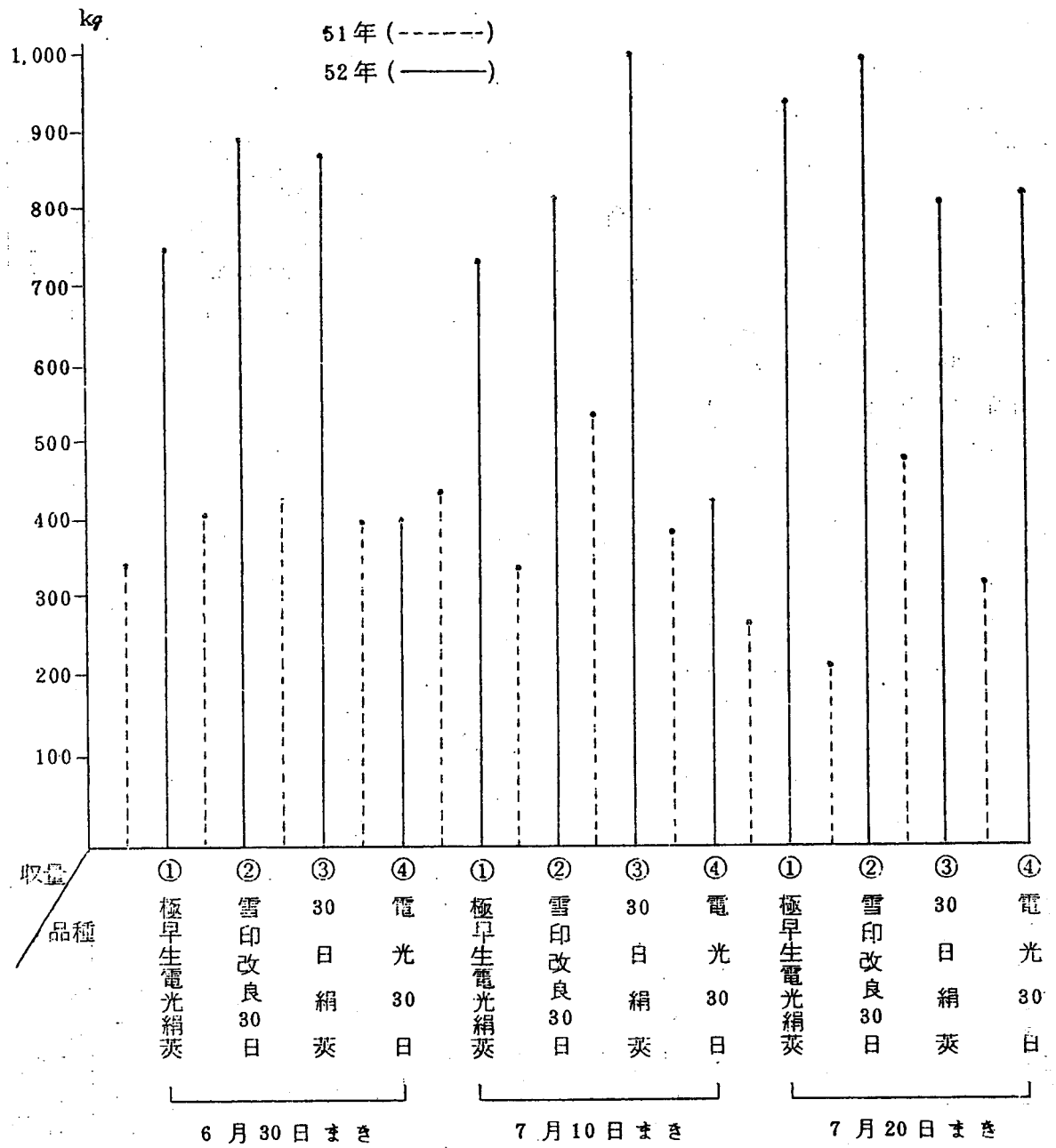
(5) 主要成果の具体的データ

第1表 生育調査(52年)

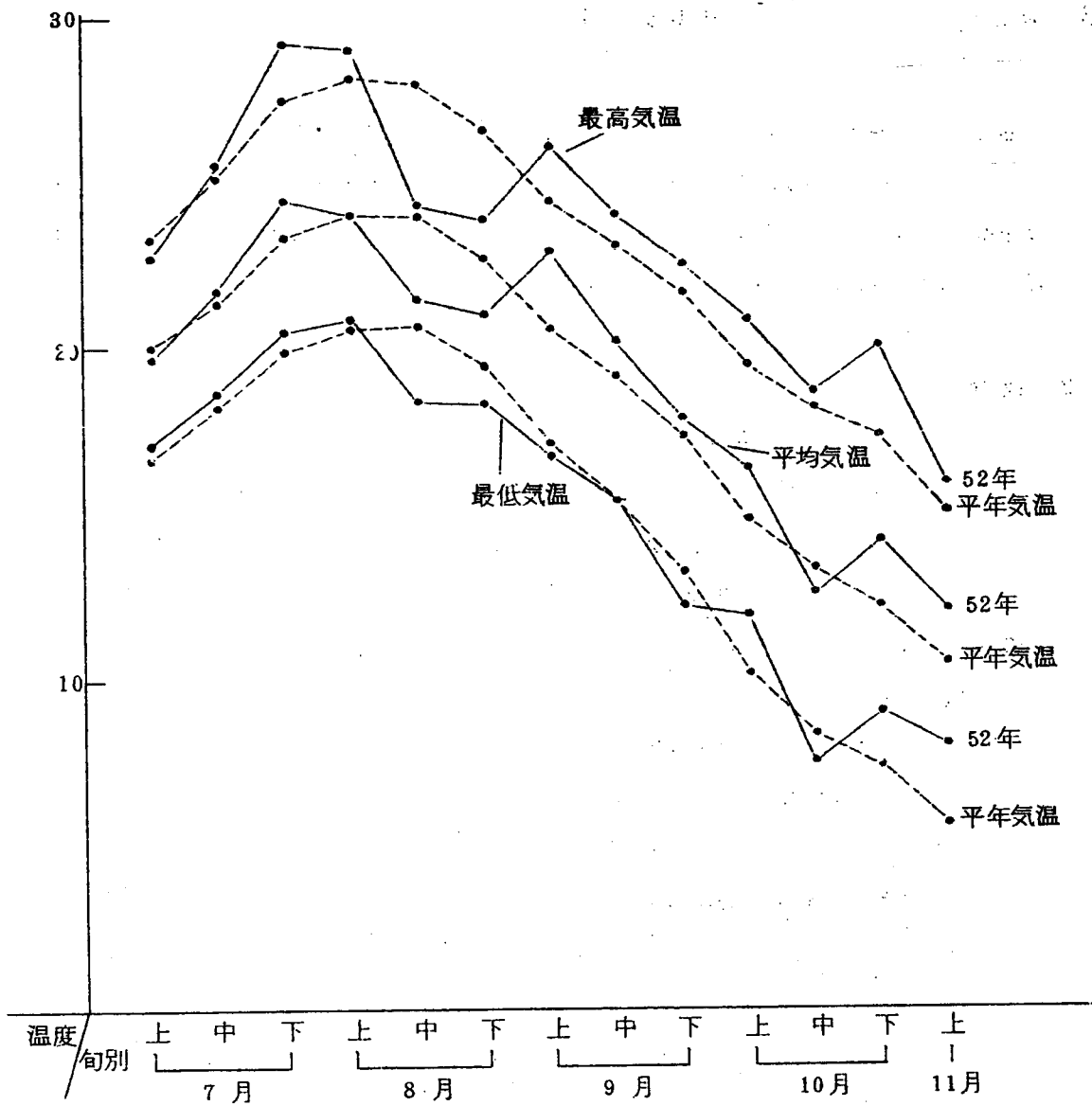
は種期	項目 品種名	9月3日調査			開花始	収穫始	収穫後	は種後 収穫始 までの 日数	収穫 日数	つる枯細菌病 調査区当たり (10月20日)
		草丈 cm	節数	有効 分枝数						
6 月 30 日	① 極早生電光絹莢	127.5	17.4	1.0	7月27日	8月5日	11月2日	36日	89日	10%
	② 雪印改良30日	109.6	16.1	1.1	7月27日	8月5日	11月2日	36日	89日	10
	③ 30日絹莢	108.5	16.3	0.6	7月27日	8月5日	11月2日	36日	89日	0
	④ 電光30日	96.4	16.2	0.9	7月27日	8月5日	11月2日	36日	89日	50
7 月 10 日	① 極早生電光絹莢	90.5	14.2	0.7	8月5日	8月22日	11月6日	43日	76日	30
	② 雪印改良30日	91.4	15.2	0.4	8月5日	8月22日	11月6日	43日	76日	10
	③ 30日絹莢	90.8	14.8	0.4	8月5日	8月22日	11月6日	43日	76日	20
	④ 電光30日	89.7	15.0	1.9	8月5日	8月22日	11月6日	43日	76日	40
7 月 20 日	① 極早生電光絹莢	60.6	10.9	0.8	8月14日	9月5日	11月10日	47日	66日	0
	② 雪印改良30日	59.0	11.0	0.6	8月14日	9月5日	11月10日	47日	66日	0
	③ 30日絹莢	52.7	12.1	0.8	8月14日	9月5日	11月10日	47日	66日	0
	④ 電光30日	60.1	12.2	0.6	8月14日	9月5日	11月10日	47日	66日	0

第2表 時期別収量、上莢+曲莢(㎡当たり) (S52年)

は種期	項目 品種名	8月		9月		10月		11月		合計	
		個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
6 月 30 日	① 極早生電光絹莢	149	223	207	309	163	220	12	15	531	767
	② 雪印改良30日	141	181	276	350	274	358	11	13	702	902
	③ 30日絹莢	116	153	227	323	296	383	20	24	659	883
	④ 電光30日	106	142	93	124	92	136	9	13	300	415
7 月 10 日	① 極早生電光絹莢	70	112	218	303	226	317	9	13	523	745
	② 雪印改良30日	38	50	260	347	298	395	26	35	622	827
	③ 30日絹莢	41	50	304	412	385	507	31	44	761	1,013
	④ 電光30日	57	74	169	221	96	128	10	17	332	440
7 月 20 日	① 極早生電光絹莢	—	—	229	263	386	556	78	133	693	952
	② 雪印改良30日	—	—	246	313	422	574	91	135	759	1,022
	③ 30日絹莢	—	—	176	231	357	484	57	106	590	821
	④ 電光30日	—	—	181	214	359	460	92	156	632	880



第1図 は種期別販売莢収量



第2図 気 象

5 残された問題点

つる枯細菌病防除の確立

6 参考資料

岩手県園芸試験場南部分場試験成績書 昭51.52年